

"しんじ"を信じる **京都府議会議員 (躍動京都)**

二ノ湯しんじ通信

第41号

編集・発行 二ノ湯しんじ事務所
〒616-8104
京都市右京区太秦下刑部町190
アイキュービル2階
TEL: 075-862-1355
FAX: 075-862-1350
✉ ninoyushinji@palette.plala.or.jp
URL: https://ninoyu.net

今こそ、**伝統が未来を拓く!**
大自然と調和した潤いある生活の再生に向けて

皆様のお蔭をもちまして、これまで5期16年半の間、京都府議会議員を務めることができました。どれだけの仕事ができたかと振り返っては反省しきりです。

この間、民主党への政権交代に象徴されるように、国民には常に「新しい次なるもの」への渴望があったと感じています。敗戦後、人口増加を背景に日本は奇跡的な経済成長を遂げましたが、近年は人口減少と経済の長期低迷に苦しんでいます。三世代同居から核家族へ、そして単身世帯が主流にといった家族や地域社会の変質もあり、色々なところで生きにくさを感じておられる方も多くいます。

今後は、総人口・労働力人口もさらに減り、国際化やデジタル化も進み、生活の質はどんどん変化してゆきます。周辺諸国による軍事的行動や気候変動に伴って経済・エネルギー・食料について安全保障の言葉を聞くことも珍しくなくなりまして、

明確に語れずとも、漠とした不安と不満は多く



政治を変えてもより良い京都をつくろう!

秋もぐつと深まり、京都は美しい季節を迎えています。冬を耐え、春に芽吹き、酷暑の夏を乗り越えた成果です。16年半の府議生活は四季の巡りと重なり感謝いっぱいです。今新たに、皆様とより良い京都を創る決意を致しました。

の人の心にあるでしょう。その一方で、選挙の度に投票率は下がっていく。「政治が自分たちとは別世界のもの」「事態は何も改善しない」という諦めに近い感覚が支配しているのでしょう。これほど危険なことでは。政治の側にある者として猛省が必要だと思います。

私にできることは限られてはいますが、少なくとも京都の人々の心に寄り添い、多くの人が「社会や生活が良くなった」と実感できる政治改革は、我々世代の責任だと思っています。

日に日にその気持ちは強まり、もはや自分を偽ることはできなくなりました。そもそも政治家の仕事は、食いつけを得るものではありません。退路を絶って、来年2月に実施予定の京都市長選挙に立候補することを決意しました。

人生は長いようで短い。勝負する時はそう多くない。皆様とともにより良い京都をつくっていく先頭に立つべく頑張ります。引き続きご指導の程宜しくお願い申し上げます。

二ノ湯しんじ通信(メルマガ)もお読みください!! ご希望の方は、merumaga@ninoyu.net にメールをお願いします。

「二之湯真士とこれからの京都市を考える集い」にご参加ください!

テーマ: より豊かな京都市をつくろう! (仮)
とき: 令和6年1月14日(日) 14:00-15:30
ところ: ホテルグランヴィア 5階「古今の間」(京都駅ビル内)
講師: デービッド・アトキンソン氏
会費: 10,000円 *政治資金規正法第8条の2に規定する政治資金パーティーです。
主催: 躍動京都 お問い合わせ、お申込みは、二之湯真士事務所まで



平成29年 対談の様子

京都府と京都市の連携を深めてともに豊かに!

明治時代に、京都府を通じて国に直轄管理された歴史をもつため、京都市は成立してから一貫して府の関与を嫌い、府に任せるべき仕事も自前で実施してきました。それが、人口減少・経済低迷の今となっては財政難に苦しむ原因となっています。京都府の6割弱の人口を有する京都市の衰退は京都府全体に悪影響を及ぼします。これまでの深く踏み込まない府市協調を超えて、京都府と京都市の実施的な連携が求められています。

都市圏を意識した広域的なインフラ整備

京都市内の道路・鉄道・バスは、中心ほど整備されて便利ですが、周辺部はそうではありません。しかし、京都市は、周辺部および近隣の市町から多くの人々が通勤や通学をされる都市圏を形成しています。広い視野でインフラ整備を進めなかったがために、市周辺部は交通が不便で若い世代が住みたい地域ではなくなり、近隣との連絡も不十分です。都市圏を形成する発想を持ち、市周辺部のインフラ整備を進めて住み良い地域を広げて、隣接市町とも良く連携すべきです。

サービスカットにならない京都市財政改革

総合支援学校(障害を持つ子どもの教育機関)は府県の仕事ですが、京都市は自前で設置しています。また、高校も都道府県に任せれば良いものです。特に、高校は、少子化が進行する中で、市内の高校生の約半数が通う私立高校の経営難という京都の特殊事情もあり、検討を急ぎます。個人的には、市立高校は、段階的に公園・スポーツ施設・文化施設・創業間もない事業者のオフィスやラボ等、ニーズの高い施設に用途転換するのが良いと考えています。

施設などの一体的整備で機会損失を解消

京都では国際的なスポーツの大会が開催されません。有名アーティストの屋外ライブ等ありません。これは施設の規格が小さいからです。京都市内に、府立・市立のスポーツや文化の施設はそれぞれあっても、大きなイベントを召致できる立派な施設を一緒に整備してきませんでした。そういう府市協調はほぼ無かったために、大きな機会損失に繋がっています。行政の面子より府民市民の利益が最優先されるよう努力します。

経済活動の様々な分野で都市間連携を深める

京都市の特定の観光地に客が集中して周辺環境が悪化していますが、府と市は、広域観光で協力して客の分散化を図るべきです。大消費地の京都市と生産地である周辺が、飲食業を通じてより連携を深めることも良いでしょう。京都市内の企業が新たに建設する工場等は府内市町村であって欲しいし、大学・研究機関についてもそうです。これらは、行政が中心に情報共有すれば実現し得ることです。府市双方に努力が求められます。

躍動、京都!

京都府議会でも躍動京都の会派が誕生しました。躍動する京都の実現には、これまで以上に京都府と京都市の連携が不可欠になります。私も引き続き努力します。



躍動京都の目指す京都像を日々街頭で訴えています。

16年半の活動を振り返り、今後を展望し努力を誓います！

経済では、「失われた20年」からの脱却が課題でした。観光客増加と東京五輪で復調に期待が膨らんだ矢先の新型コロナウイルスで再び停滞。京都では、観光の力が広く豊かさに繋がらず、市民生活との両立も課題です。観光に頼らない産業育成も重要で、企業と大学・研究機関との連携が期待されます。

少子化対策が功を奏さず超高齢化が進み、あらゆる分野における人手不足と医療・介護の供給には大きな課題があります。希望すれば働き続けられる健康長寿社会を京都から作りましょう。

天災では、東日本大震災における原発事故は今の文明のあり方を鋭く問いました。新型コロナウイルス感染症では、危機管理・デジタル化・男女や地域の格差等の課題が浮き彫りにされた一方で、慣例の見直しや、地方回帰、在宅勤務や二地域居住など新しい動きも見られました。

政治では、民主党政権の誕生、自民党政権への復帰がありました。総じて既存の政治に対する「いらねーや」「あきらめ」が増えています。困難な時代です。政治の役割は大きくなります。政治に信頼を取り戻す責任を自覚しています。

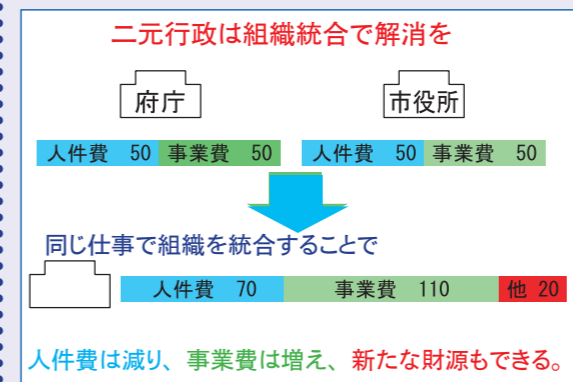
1 期目

府市二重行政の解消

行政改革（節約）によって未来を創る財源を！

問題意識：府市ともに「財政が厳しい」と様々な事業が縮小されるが、お金が無いなら、府市が共同で行政の組織改革に努め、税金のより多くを住民に還元すべきではないか？

解決方法：京都市議員の有志とともに継続的に勉強会を行い、両議会で提言を続けた結果、「動物愛護センター」「計量検定所」「保健環境研究所」「消防学校」等、複数の府市類似施設や業務を統合できた。



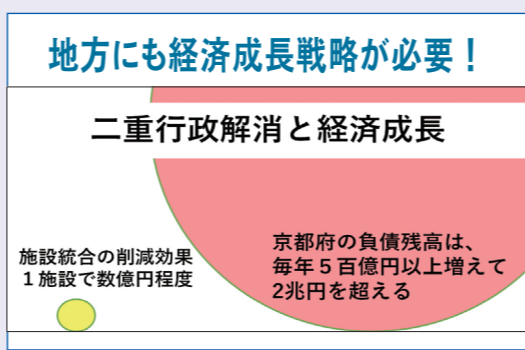
2 期目

京都流の成長と活力を！

持続可能な社会には行革+経済成長！

問題意識：府市類似施設の統合による削減効果より、府市双方の債務の増加の方が桁違いに巨額である。持続可能な社会の構築には、節約に加えて京都の特性に応じた経済成長も必要である。

解決方法：観光客の増加も活かして文化・芸術を核とした産業育成はできないかと、映画産業・舞台芸術・音楽等の事業を展開。また、IT、製造業、伝統産業、医薬等の各方面の方々との勉強会を結成し、研究を重ねた。



3 期目

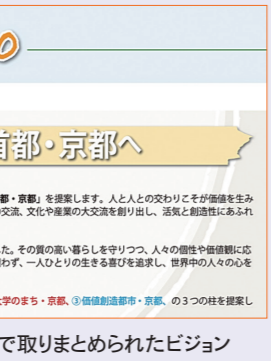
コロナが示した課題を直視する！

様々な格差や時代に合わない在り方を改革して前へ！

問題意識：行政のデジタル化の遅れによりきめ細かな対策の実施が難しく、また医療関連物資等の国内調達ができずに経済安全保障が意識された。また、女性の自殺が増加し、男女格差が問題視された。社会の課題や弱点を直視し改善する機会である。

解決方法：経済安全保障や食糧安全保障の視点は、地方公共団体における産業育成や農業振興等でも意識すべき視点であり、自らの政治活動でも改めて心掛けるようになった。産学連携を

推進する方々との協働、輸入する化学肥料に依存しない農業への転換の研究、文化庁を迎えた地からの文化芸術事業を実施してきた。



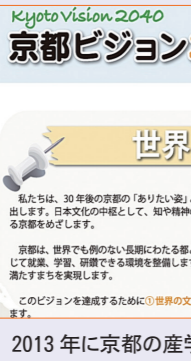
4 期目

住む人良しで世界が憧れる平安の都へ

歴史文化：地域・大学・企業の総力で、物心ともに豊かに！

問題意識：人口が減少し、機械が人間の代わりをしていく社会で、人の生き方・社会のあり方が根本から問われている。新型コロナを経て社会変革の機運が高まる中、少子化と高齢化の課題解決も含めて、前例にならうだけではジリ貧になる。歴史に学びつつも、総力を挙げて物心ともに豊かな京都へ転換する。

解決方法：人口減少対策として、行政業務の効率化や企業の生産性向上に挑戦し、財政改革と所得向上を実現。京都市の子育て世代の流出を防ぐ、住宅政策と交通政策をセットで実施。塾などに依存しない公教育の充実。元気な高齢者が困っている高齢者を支援する安心の地域社会。観光に依存しすぎない産業構造へ。様々な分野で産学官等の京都の総力を結集し、前例なき挑戦を進める。



“周辺から核心に迫る” 2丁目3番地！

○右京区には国の名勝である府立亀山公園と市立公園の双ヶ丘がある。ともに眺望が良いことが名勝指定の理由だが、今はそうとは言えない。公園不足や観光分散化が言われる今、行政の本気度が問われる。

○国宝1号の弥勒菩薩半跏思惟像が祀られる太秦広隆寺。PTA会長を務める太秦小学校は広隆寺境内から始まったご縁で、夏休みに全児童と保護者の特別な参拝を認めて頂いた。

歴史文化と共にある生活が市民の日常に浸透すれば、京都に住む価値はもっと高まる。

○京北での米づくりは7年目。今年も無事に収穫が出来た。年々、地域の過疎化と高齢化が深刻になる。農村の機能が衰える。食料供給や災害の防止等に悪影響が大きい。都市と農村の共存が急務だ。

○京都全体の発展には、食料の地産地消、インフラ整備等で、京都市に周辺市町と連携する強い意志が不可欠。市内で文化を、市外で自然を体験する観光連携も良い。先日、忙中閑あり、家族で亀岡まで芋掘りに出かけた。

○京都に文化庁を迎え、地域文化の創生が掲げられたが、地域社会が変化し文化の継承が危ぶまれている。うちの町内も高齢化で地蔵盆の継続が難しい。地域社会には福祉・防災・子育て等の機能もあると再確認すべきだ。

